



社会的自立へ向かって

2月28日(水)障がい部会幹事10人が市内の施設見学研修を行いました。当日見学したのは、小山田にある社会福祉法人つばさの会 就労継続支援事業所「フレッシュながの」と地域活動支援センター 指定相談支援事業所「こころっと」の2か所。

「フレッシュながの」は平成9(1997)年に共同作業所としてスタートして、平成23(2011)年から現在の就労継続支援(B型)事業所になりました。仕事をして社会的自立を目指すことが目的のため、利用者は袋詰め、シール貼りや検品など自分に合った作業をしています。「こころっと」は平成13(2001)年に無許可作業所としてにスタート。仲間との交流、地域との交流を通して社会参加の促進を目的に平日気軽に立ち寄れる喫茶室があります。

＊参加者の声＊

○交通費の補助がなかったり老後に不安があったりと、民生委員・児童委員ができることを真剣にかんがえなければいけないと思いました。



支援者の役割を再確認

乳 児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業、以下本事業)実施者研修会が3月2日(金)市立子ども子育て総合センター「あいっく」子ども交流センターで開催され、主任児童委員8人が参加しました。今回は、講師に女性ライフサイクル研究所フェリアンの桑田道子氏を迎え、支援者の基本態度や家庭訪問をする時の注意点を再認識する目的で実施されました。

最初に、不安そうに赤ちゃんを抱いた母親の吹き出しに言葉を書き込んで、支援される側にとって何が不安なのかを発表し合いました。その発表を通して、桑田氏は、「事前に伝えておいたり、笑顔で声かけしたりすることで、相手の不安やストレスは軽減されます」と支援者が相手を思いやる姿勢の重要性を強調しました。

＊参加者の声＊

○経験が長い支援者ほど相手に「教えたり」「直したり」する傾向が強いので、ただ理解する共感的対応を大切にするという桑田先生の言葉にハッとしました。



最後まで自分らしく生きるためには

3月31日(土)市民交流センター(キックス)4階イベントホールで、「地域支え合いフォーラム～つなぐ 広がる 地域のチカラ」が開催されて、民生委員・児童委員を含む 人が参加しました。

第一部では、医療経済研究機構の服部真治氏が「地域包括ケアシステムと地域の役割」という題で講演をしました。本市の人口推移や介護関係職種別年齢構成を示しながら、地域包括ケアシステムを考えなくてはならない理由や具体的な方策を述べました。また、同氏は統計的に自治会などへの社会参加やサロンや会食などで他人との交流が多いほど長く健康でいられることを述べ「介護予防の促進のキーは社会参加です」と強調していました。

第二部は、「かわちながの地域支え合い推進協議会(協働体)について」の説明と報告がありました。社会福祉協議会の土橋崇之氏から平成4年から始まった地区(校区)福祉委員会の支援活動の概要と新しい生活支援の仕組み(協働体)の内容の説明がありました。その後、4団体の事例紹介がありました。

＊参加者の声＊

○専門的なことはできないかも知れませんが、サロンに参加してもらえるように声かけぐらいならできると思いました。

